

医師・看護師等の増員を求める意見書

今日、医師・看護師不足が大きな社会問題となり、和歌山県内の医療機関も大変苦勞をしている。背景には、急速な高齢化や医療の高度化などがあると言われている。しかし、根本的原因是医師や看護師の絶対数が少ないことにある。日本はOECD加盟30カ国中、医師数27位、看護師数14位であり、WHO加盟国比較でも医師数は63位、看護師数は27位と先進国でありながら極めて少ない。理由は、政府が「医師や看護師がふえると日本の医療費がふえる」として、医学部定員の削減や看護師養成を抑制してきたことにある。

その上に、勤務医の過労死や看護師の離職率13.1%（日本看護協会調査）に見られるような現場の過酷な労働実態がある。日本医労連の調査でも「十分な看護が提供できている」と答えた看護師は8.1%でしかなく、73.1%が「仕事をやめたい」と思っている。このままでは医療の安全が脅かされるとともに、地域医療の崩壊も危惧される。

ついては、政府並びに和歌山県に対し、医師・看護師不足対策のために下記事項が実施されるよう要望する。

記

1. 地域医療を充実させるために医師確保対策を強化すること。
2. 看護師など医療従事者を大幅に増員すること。
3. 看護師養成所を日高郡内に開設すること。また、院内保育所を充実させるなど看護職員確保対策を強化すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成19年6月27日

御 坊 市 議 会

内 閣 総 理 大 臣

安 倍 晋 三 殿

厚 生 勞 働 大 臣
和 歌 山 県 知 事

柳 沢 伯 夫 殿
仁 坂 吉 伸 殿